

## &lt;推奨コース&gt;

Aコース 赤山地下壕～頼忠寺～掩体壕～総持院 [距離] 約2.5km [所要時間] 徒歩約40分

① 赤山地下壕 1分 90m → ② 3分 200m → ③ 1分 54m → ④ 1分 110m → ⑤ 頼忠寺 2分 180m → ⑥ 1分 30m → ⑦ 掩体壕 1分 30m → ⑧ 8分 530m → ⑨ 7分 480m → ⑩ 3分 200m 総持院 2分 170m → ⑪

## &lt;おすすめスポット&gt;



## ① 赤山地下壕(あかやまかごう)

建設時期については、1930年代半ば頃に工事がはじめられたとする説もありますが、この地下壕の建設に携わった旧館山海軍航空隊兵士の複数の証言から、1944(昭和19)年以降に建設工事が開始されたことや、1945(昭和20)年8月15日の終戦の日まで工事が行われ、未完成であること等が明らかになってきています。館山海軍航空隊赤山地下壕が防空壕として建設され、かつ一部が使用されていたことは、防衛庁防衛研究所所蔵の「館山航空基地次期戦備施設設計画位置図」の赤山地下壕の位置に「館空自力発電所」「工作科格納庫」「館空応急治療所」という記載があることや、内部にある発電施設跡、終戦間際にこの壕の中で実際に館山海軍航空隊の事務を行った、あるいは、病院施設があったなどの証言から、知ることができます。



## ⑤ 頼忠寺(らいちゅうじ)

宮城の頼忠寺(らいちゅうじ)には、山門を入った右手に、太さ2.3m、高さ15mのナギの雌木がある。幹は円柱状でまっすぐに伸び、樹皮は紫褐色で滑らか、枝を長く垂れ下げる。葉は厚く、表は濃緑色で艶があり、丈夫な葉脈が縦に通っている。容易に切れないことから「弁慶泣かせ」の別名がある。樹勢もあり、秋には1m程の丸い実をつける。根元には芽生えが見られる。



## ⑦ 掩体壕(えんたいごう)

館山海軍航空隊は、海軍5番目の航空隊として、昭和5(1930)年にできました。昭和14(1939)年の記録によると、館山海軍航空隊には、97式艦上攻撃機を中心に124機の飛行機がありました。この時の館山海軍航空隊の役割は、中国で行われていた戦争に飛行機を送ることでした。しかし昭和16(1941)年、日本とアメリカが戦争をはじめると、館山海軍航空隊は、東京、東京湾、太平洋岸を守るための基地として使われました。この「掩体壕」は、アメリカ軍の飛行機に爆弾を落とされても飛行機を守ることができるよう、全体が分厚いコンクリートで固められています。館山海軍航空隊と洲ノ崎海軍航空隊の周辺には40以上の掩体壕がつけられましたが、現在残っているのは、この宮城のもの、香(こうやつ)に残っている大型の掩体壕の2つだけです。



## ⑩ 総持院(そうじいん)

沼の大寺の名で親しまれる総持院裏山の中腹、標高約25mの位置に、高さ3m、幅6m、奥行25mの海食洞穴があります。古墳時代中期には墓として使われ、人骨、土師器(はじき)、須恵器(すえき)などとともに、大刀・鉄剣・鉄鏃(てつぞく)・刀子(とうす)などの武器と、短甲(たんこう)などの武具が出土しています。短甲は革綴(かわどじ)の短甲、横矧板鉄留(よこはぎいたてつどめ)短甲という2種類のもので、なかでも横矧板形式の短甲は5世紀後半に大量生産され、国内の軍事力増強をめざした中央政権が、地方の権力者に配布したものです。



## ヒカリモ

「ヒカリモ」は、日本各地の水のきれいな洞窟や、山陰などの池に生息する藻類であり、館山市では沼地区の周辺の洞穴で観察することが出来ます。顕微鏡でなければその姿や形を確認することができない程小さなものですが、洞穴内の水たまりなどに群生して浮かぶと、光線を反射して水面が黄金色に輝くことで知られています。



## 沼サンゴ層(ぬまさんごそう)

サンゴ層は、沼の谷奥海拔20mの地点にあり、6000年～1500年前に形成されたもので、当時周辺が海だったことがわかります。沖積世の縄文海進にもなつて形成された沼層といわれる地層に含まれた、造礁性サンゴの化石で、海進によってできた溺れ谷の汀線近くに生育していたサンゴが、その後の地盤運動によって隆起したと考えられています。千葉県天然記念物に指定されています。



## 沼のびやくしん

びやくしんはヒノキ科の植物で、宮城県以南の本州、四国、九州の海岸地帯に自生しています。十二天神社の境内にあり、県内で最も大きなビャクシンの木です。幹周(地上1.5mの樹幹周囲)7.45m、樹高は17mあり、枝張り東西20m、南北24m、かたちのよい樹容をみせています。地上2～4mで11本に枝分かかれし、内1本は切断された跡があります。樹皮は縦に裂け、ねじれ上がっており、空洞もあります。推定樹齢は約800年です。館山市指定天然記念物(昭和36年10月21日指定)